

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概 要)

先般開催した、令和6年度第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和6年6月 24 日(月) 13 時 30 分～15 時 35 分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室および WEB

3. 主な意見等

- 原木入荷については概ね順調だが、製材の動きは良くない。道産木材の需要拡大に向け、道では非住宅の建築物を「HOKKAIDO WOOD BUILDING」として登録しており、68 棟までに増加した。また、今年度の道有林における立木販売量は、昨年度実績とほぼ同量の 56 万7千m³を予定している。
- 事業量は例年並みで、現在、下刈や間伐、主伐を並行して実施中。今後は間伐を中心に、主伐へと移っていくが、市場や工場の在庫状況に応じて対応していく。厳しい状況が継続する場合、皆伐を控えることもあり得る。国有林材の供給調整については、地区や樹種で状況が異なるが、立木販売の搬出期間延長で、市況等を見極めながら実施できるとありがたい。
- チップ工場では発電向けの需要により、トドマツチップの原木が高値安定し、採算が取りにくい。本州では2×4の SPF 材の代替にトドマツをとの声が多いが、安価なスギに連動して、トドマツへの値下げ圧力が強い。住宅用木材への値下げ圧力も強いが、木材を除く住宅設備や資材の価格は上昇し続けていることから、木材も同様に価格が将来的に上がるとアピールする必要がある。
- 今年度、国有林の生産請負事業量が増加し、年間を通じて請負事業を実施する事業体が増え、事業体は手持ちの立木販売等まで手が回らない状況が想定される。素材生産量が増えている中、搬出距離が長い等、若干作業効率の低下が見られる。大型の集成材工場の建設が話題だが、工場の需要に供給側が対応できるか、素材生産業者の立場として非常に心配している。
- プレカットについて、一般住宅の見積もりが増加傾向だが、競争が激しく、その後に中々繋がらない。一方、非住宅については、見積もり案件が少しずつあり、コロナで一時期動きが止まっていた案件も動き出し始めている。先行きは不透明だが、少しずつ引き合いは入ってきている。
- 道内の原料材に関しては製紙原料、バイオマス燃料とも高値維持で、バイオマス発電所は販売価格が一定のため、採算が厳しい。一方、製紙工場の多くは 4 月以降値上げで対応している。原料材の需要に対して、限られた供給を取り合う状況が継続していることから、今後も原料材の安定供

給を望んでいる。

- 現在の市況動向について、価格の下落はあったものの、悪いなりに荷動きがあったため、通常通りの生産に戻している。昨年は猛暑による原木の傷みから歩留りが悪く、生産量が減少したため、今年は原木の品質に気をつけながら生産していく。今後の国有林の供給調整について、立木販売の搬出期間延長は事業体に非常にいいことで、柔軟に対応してもらいたい。その中で今後国産材のシェアを上げていきたい。
- カラマツの梱包・パレット材について、国内需要が低迷し、本来想定の仕事量に及ばず、懸念していた輸送については問題なく対応できている。大型集成材工場の建設について、現状のチップ価格のように競合により原木価格が高騰し、製品価格に見合わなくなると危惧している。工場の需要に対する素材生産量を安定的にだせるような流れを考えていただきたい。
- バイオマス発電では、原料材の高騰により収支が圧迫している。収支改善のため、チップ加工している発電所は、一部の原料をチップから原木にシフトする動きがある。別の発電所では、含水率をうまく下げ、長期間保管せず燃やす形で進めていく。国有林材については、一般材の不振に左右されず、安定的に供給していただきたい。